

# 「第2次静岡市生物多様性地域戦略」（概要版）

## 第1章 生物多様性と地域戦略の策定について

### 生物多様性とは？

「生きものの豊かな個性とつながり」のこと

多様な生きものつながりがもたらす恵み「生態系サービス」

私たちの暮らしに欠かせない酸素や水や食料などは、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みによって支えられている

### 生物多様性を取り巻く4つの危機

#### 第1の危機

開発や乱獲など、人間活動による危機

#### 第2の危機

自然に対する人間の動きかけの縮小による危機

#### 第3の危機

人間により持ち込まれたものによる危機

#### 第4の危機

地球環境の変化による危機



生物多様性損失

### 計画の目的

持続的に生態系サービスを受用できる社会の実現のため、生物多様性と生態系サービスの関連を持つて、その恩恵のもと生活していることを理解して行動する「生物多様性の主流化」を推進すること

### 見直しの背景

前地域戦略について目標年である2020年を迎えたこと ⇒ 2030年を目標年度とした計画を策定  
社会状況や生息状況等に大きな変化があったこと ⇒ 新たな課題に対応した計画を策定

対象地域 静岡市全域

計画期間 2021年～2030年度(10年間)

## 第2章 静岡市における生物多様性の現状と課題

- 静岡市の自然環境等の状況や生きものの生息状況を整理する
- 前地域戦略の評価と課題を踏まえ、静岡市の生物多様性の課題を下図のとおり整理する

### 代表的な課題(自然環境・生きもの)



### 代表的な課題(活動主体)

- ⑤ 保全活動の担い手不足
  - ・既存の活動団体同士のつながりが薄く、活動が拡大しづらい
  - ・後継者不足で、次のリーダーの育成が難しい
- ⑥ 自然と触れ合う機会の減少
  - ・自然や生きものに興味・関心がある市民が限定的
  - ・自然と触れ合う遊びを楽しむ子どもが減少している
- ⑦ 環境教育の教材や情報の不足
  - ・教員の時間不足及び専門知識を有する教員の不足
  - ・環境教育に関する学習教材や事例情報が不足

## 第3章 静岡市の将来像と4つの戦略

### 地域戦略が目指す将来像

- 前地域戦略では、2050年のゴールに向けて、「生物多様性の考え方の普及と保全・再生への着手」に取り組んできた
- 本地域戦略では、2050年のゴールは据え置いたまま、2030年までの目標を新たに設定した

2050

### 2050年の静岡市の姿

生きものとの共生による、健康で豊かな暮らしを次世代に受け継いでいく社会



2030

第2次目標

### 2030年の目標

社会・自然の変化に対応した生物多様性への理解・協働推進による保全・再生の拡大

リーディングプロジェクトを中心とした施策展開・PDCAサイクルに基づく見直し

#### 戦略1

生息・生育場所を守る  
～人と生きものが共生する社会づくり～  
方針1-1 南アルプスから駿河湾まで広がる生きもの生息・生育場所を守ります。  
方針1-2 自然と居住の境界の環境保全に努めます。  
方針1-3 外来種の把握・防除に努めます。

#### 戦略2

活動のきっかけをつくる  
～自然を身近に感じ、親しみ社会づくり～  
方針2-1 まちなかで自然ふれあい機会の拡大に努めます。  
方針2-2 自然の中での健康的な活動機会を推進します。  
方針2-3 身近な緑地の保全に努めます。

#### 戦略3

活動を継続する  
～環境への関心・関与を継続できる社会づくり～  
方針3-1 幼児期からの環境教育を推進します。  
方針3-2 多様な主体間での生物多様性情報の共有を図ります。  
方針3-3 環境保全活動の輪を広げます。

#### 戦略4

生物多様性を評価する  
～生物多様性に配慮した社会づくり～  
方針4-1 多様性評価のための適正な指標整備を図ります。  
方針4-2 指標に基づく種の保全環境の整備に努めます。  
方針4-3 生態系の多様性に配慮した行動への転換に努めます。

各戦略を横断し戦略全体をリードする6つのリーディングプロジェクト

- ① 南アルプス地域保全・再生プロジェクト
- ② 里地里山保全・活用プロジェクト
- ③ 外来種対応の適正化推進プロジェクト
- ④ まちなか自然ふれあい活動推進プロジェクト
- ⑤ 幼児期からの環境教育推進プロジェクト
- ⑥ 環境モニタリング等の市民参加推進プロジェクト

2021

第2次スタート

### 2020年の目標

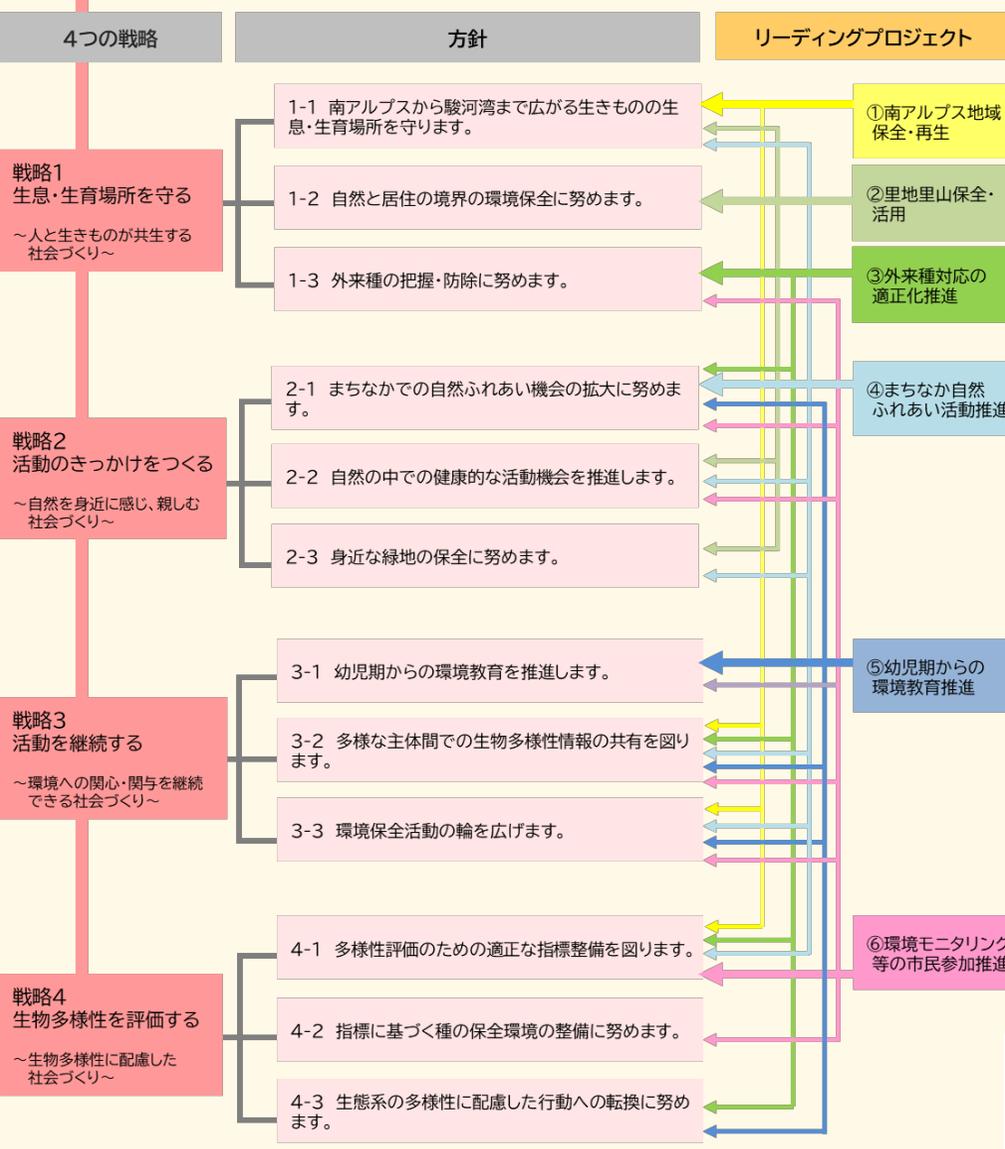
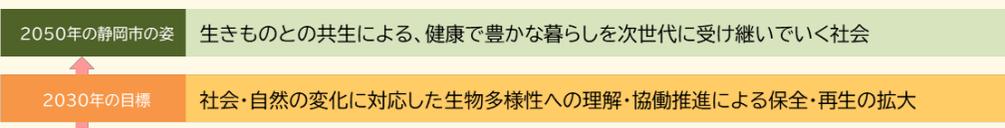
生物多様性の考え方の普及と保全・再生への着手

第2次静岡市生物多様性地域戦略（今回）

前戦略

# 第4章 リーディングプロジェクト

4つの戦略を達成するための事業の中でも、それぞれの戦略に関係し、戦略全体をリードしていく事業を「リーディングプロジェクト」として、重点的に取り組んでいく



# 6つのリーディングプロジェクト

### ① 南アルプス地域保全・再生

**実施事業**

- シカの食害対策推進による高山植物の保護
- 南アルプスにおける自然環境・生態系保全
- 高山植物保全活動の担い手育成

### ② 里地里山保全・活用

**実施事業**

- 放任竹林対策の継続的な実施
- 里地里山における保全・再生活動の推進
- 放任竹林の整備推進
- 緩衝地帯の整備推進

### ③ 外来種対応の適正化推進

**実施事業**

- 特定外来生物の調査・対応
- 市民協働の特定外来生物の調査・駆除
- 特定外来生物の情報収集・発信

### ④ まちなか自然ふれあい活動推進

**実施事業**

- まちなかにおける自然観察会
- まちなかにおける環境保全活動の推進
- 麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進
- 地域団体等への緑化推進支援

### ⑤ 幼児期からの環境教育推進

**実施事業**

- 環境学習指導員の派遣
- 沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施
- 環境大学における環境学習リーダー育成
- こども園等に対する環境教育情報の提供

### ⑥ 環境モニタリング等の市民参加推進

**実施事業**

- 水生生物のモニタリング調査
- 自然観察会における生きもの調査
- 市民による生きもの調査

### ④ まちなか自然ふれあい活動推進

■ 身近な場所で気軽に参加できる取組を実施することで、自然への興味・関心を醸成する。

<取組例>  
まちなかでセミの抜け殻観察会を開催し、セミの種類や生態、見分け方を学習するとともに、身近な自然環境の変化や地球温暖化について学習する機会を提供する。



(例)河川美化ボランティアによる清掃活動

### ⑤ 幼児期からの環境教育推進

■ 幼児期における自然との触れ合いにより、自然や生きものを大切にする心を育む。

<取組例>  
こども園向けに環境学習指導員を派遣し、園庭や近くの自然の中で遊びながら学ぶ機会を作り、先生向けには幼児でも取り組みやすいプログラムを提供する。



(例)幼児に対する環境教育

### ⑥ 環境モニタリング等の市民参加推進

■ 市民によるモニタリングを通じた情報収集体制を整備する。

<取組例>  
高校生以上を対象とした市民生きもの調査員養成講座など、生きものの特徴を詳しく知る講座を開催することで市民の関心を高め、身近な自然観察等モニタリング活動に関するノウハウを学べる機会を提供する。



(例)水生生物調査

# 第5章 推進体制と進行管理

**推進体制** 進捗状況を静岡市生物多様性地域戦略専門家検討委員会に報告し評価を受けるとともに、静岡市環境審議会等の関係機関に情報共有し、相談・助言を受け、効果的な施策の推進を図る。

**進行管理** PDCAサイクルに基づき、本地域戦略に位置づけた施策に対して、進捗状況を評価・検証し、必要に応じて計画を見直す。